

リンパ行性薬剤送達

所定条件（浸透圧）の薬剤溶液を極微量投与することで顕著な抗腫瘍効果あり

概要

がんの主な転移経路として、リンパネットワークを介したリンパ行性転移が挙げられる。現在、転移リンパ節に対する化学療法としては、血管を介した静脈内投与が一般的である。静脈に投与された薬剤は末梢組織で毛細血管より間質へ漏出し、再び血管やリンパネットワークに再吸収される。リンパ系は粒径の大きな物質を優先的に取り込む特徴があるため、静脈投与では、一般的に低分子である抗がん剤はリンパ系に送達されにくい。

リンパ行性薬剤送達では、リンパ節に直接薬剤を投与する。これにより、当該リンパ節だけでなく、リンパネットワーク下流に位置するリンパ節も治療対象にすることも可能になる。

本発明では、所定条件の薬剤溶液を用いることで、薬剤送達性等が高まり、顕著な薬効が得られることを見出した。

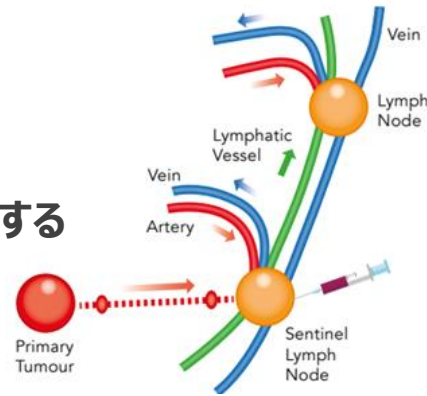
応用例

- 頭頸部がん
- 乳がん
- 他の疾患（がん以外）に対する応用は、現在検討中

知的財産データ

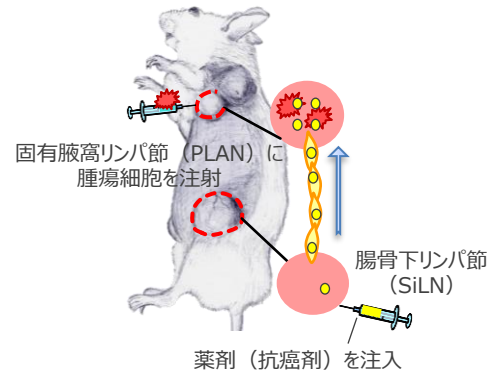
知財関連番号 : WO2019/045005
 発明者 : 小玉 哲也、森 士朗
 整理番号 : T17-036

【治療のイメージ図】

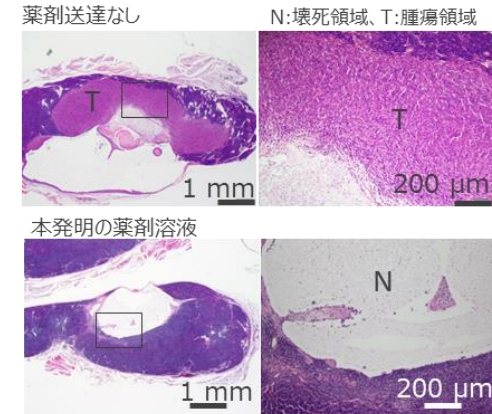


リンパ節に直接抗がん剤を注入することで、このリンパ節及びこのリンパ節のリンパネットワーク下流に位置するリンパ節まで抗がん剤を送達させてがんの治療や予防的治療を目指す

リンパ行性薬剤送達による抗腫瘍効果



【PLANの病理像】



関連文献

- [1] Cancer Medicine. 2019;8:2241–2251.
- [2] Scientific Reports | 6:32506 | DOI:10.1038/srep32506

お問い合わせ

本資料をダウンロード



お問い合わせ

<https://www.t-technoarch.co.jp/contact.html>



発明案件を随時更新中

<https://www.t-technoarch.co.jp/anken.php>



LinkedIn ページをフォロー

<https://www.linkedin.com/company/tohoku-techno-arch>



Leading you to Successful Industrialization



株式会社

東北テクノアーチ

TOHOKU TECHNO ARCH